

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
サイバーキャンパスコンソーシアム  
平成 25 年度 第 1 回生物学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時 平成 25 年 12 月 19 日 (木) 11:30~13:30  
場 所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 伊藤委員、須田委員、佐野委員 (事務局 井端、森下、平田)

### I. 検討事項

今年度は教育の質的転換に向けた教育改善の促進を目指して、昨年度とりまとめた「ICTを活用した分野別の教育改善モデルの提言」と、それに対するサイバーFD研究員の意見を踏まて、学生の能動的学修(アクティブ・ラーニング)を実現していくための効果的な取り組み方や教員の職能開発等について、今後の研究課題を検討することとしている。そのため、今回は、生物学分野における教育改善モデルに対するサイバーFD研究員の意見を確認した。

#### 1. アンケートの主な意見と対応

##### (1) 学士力の考察の到達目標、到達度について

- ・「到達目標 1」の基礎生物学的内容と「到達目標 3」の人文学や社会科学をつなぐ応用的、総合的な科目をイメージしたキーワードのどちらかに、環境科学、バイオテクノロジー、先端医療等々を入れたほうがよいとの意見があったが、具体的用語を入れてしまうとそれだけにとらわれてしまう可能性があるため、あえて抽象的な表現にとどめていることを確認し、用語は追加しないことにした。
- ・「到達目標 2」は実験実習科目を想定されているが、文中に「観察」の用語はあるものの、生物学分野に必須であるフィールドにおける調査・実験がイメージできないとの意見については、到達目標の冒頭「生物の観察や実験によって、・・・」に「フィールドワークなど」を追加し、「生物の観察や実験・フィールドワークなどによって、・・・」とすることにした。
- ・「到達目標 1」に「細胞レベルから生態レベルまで」とあるが、レベル=生物の階層性の意味では、「第 3 節」【1】生物学教員に期待される専門性」の②と同様に、「細胞レベルから生態系レベルまで」とすべきとの意見については、指摘の通り「到達目標 1」を「・・・細胞レベルから生態系レベルまで・・・」とし、「系」を追加した。
- ・「到達目標 3」の【コア・カリキュラムのイメージ】に「地球環境問題」のような具体的内容を上げた方がよいとの意見については、具体的な用語にとらわれないよう原文どおり抽象的なイメージにとどめることにした。
- ・第 1 節の図 1「生物学と他分野との関係」の項目分けについて意味があるのか疑問であるとの意見については、生物学と他分野との関わりを示しているだけであることが理解してもらえるよう、図 1 のタイトルを「生物学を取り巻く学問分野のイメージ」に変更することにした。  
また、図の説明 2 行目「多様性をもつ生物集団である。」では、生態学を含む生物学ならば、物質循環やエネルギー流などの生命体以外の物質や物理的環境も生物学を対象としているため、対象範囲が狭いとの意見については、冒頭の「生物学の対象は、・・・」を「生物学の主たる対象は、・・・」とし、2 行目「多様性をもつ生物集団である。」は「多様性をもつ生物集団などである。」として用語を追加し、範囲を狭くとらえられないようにした。
- ・到達目標に「ヒト」という視点が欠けているとの意見については、提言では生命体の中にヒトが

位置づけられるとしており、生物学から人間の体に結び付けて考えられる応用力が大学の学士力であることを確認し、モデルへの修正等を行わないことにした。

- ・このモデルの対象は、生物学科での教養レベル、生物学科の卒業レベル、他学科の教養レベルのどれであるのか、分野によって生物学を学ぶ目的が異なってくるとの意見については、次回の委員会で回答内容を検討することにした。

## (2) 授業改善モデルについて

- ・教育改善モデル【1】の「1. 到達度として学生が身につける能力」「②個体群レベル以上の生物間相互作用、有機-無機環境の相互作用など・・・」などについて、「生態系」は重要なキーワードであるが明示的に使われていないので、「生態系における有機-無機環境の相互作用など」としたらどうかとの意見については、「個体群レベル以上」の表現に生態系も含まれているため、修正は行わないことにした。

## (3) 改善モデルに必要な教育力、FD活動と課題について

- ・【1】生物学教員に期待される専門性について、①②③のすべてを備えている人は少なく、すべてを要求するのか、この中のいくつかをもっていることを要求するのかどちらであるのかとの意見については、モデルでは重要性の明示にとどめていることを確認し、特に文章の修正は行わないことにした。
- ・FD活動や大学としての課題は、視点を列挙するだけでなく、リソースを投入すること、奨励しかつ評価することをミッションとして明記し、実行を促すような踏み込んだ表現にしてもよいのではないかの意見については、この部分は教学マネジメントに関わる事項のため、本モデルでは扱わないことを確認した。

## 2. 今後のスケジュール

今回は日程調整の上、2月20日(木)12:00より開催し、アンケートで質問のあった本モデルで対象としているレベルについて回答内容を検討した後、モデル実現に向けた課題や進め方について検討することにした。